

春から初夏の端境期に出荷可能な多収性のイチゴの新品種 「豊雪姫（とよゆきひめ）」

国内のイチゴ生産量は、気温が高くなる5月下旬から11月にかけて大きく減少します。しかし、この時期にもケーキ用として、イチゴの需要があります。この需要にこたえるため、主に5月から7月にかけて果実を収穫する無加温半促成栽培(低温カット栽培)や露地栽培が、東北地方や北海道などの寒冷地で行われています。現在、東北地域北部などで栽培されているこのような作型向けの品種は、果実が硬く日持ち性は高いですが、果実の割れ(裂果)や種子の突出、果色の黒変が生じるなどの課題を抱えています。また、より収量の多い品種が求められていました。そこで、東北農業研究センターでは、これらの点を改良したイチゴ新品種「豊雪姫」を育成しましたので、その概要について紹介します。

☆ 技術の概要

1. 「豊雪姫」は、果実が大きく、形状の揃いが優れている極晩生の「盛岡32号」に、複数の病気に対する抵抗性を有する「カレンベリー」を交配した後代の中から選抜された品種です。
2. 果実が大きく、収量が多い品種で、寒冷地の無加温半促成栽培および露地栽培に適しています。
3. 果実は円錐形で、揃いが優れています(図1)。果実の割れや空洞、種子の突出は少なく、果色の黒変は見られません。糖度はやや低く、酸度はやや高いですが、食味は優れます。また、既存品種「北の輝」より果実は柔らかいです。
4. イチゴの重要病害であり、感染すると株が枯れてしまう炭疽病に対して抵抗性があります。葉は大きくて立ちあがり、大株となります(図2)。
5. 露地栽培での開花開始は「北の輝」と同程度か遅く、極晩生です。無加温半促成栽培における温度管理は「北の輝」に準じます。「北の輝」より連続して花芽が出やすく、安定した収量が得られます。

表1 豊雪姫の収量特性(2011年) 栽培地:岩手県盛岡市

作型	品種名	収穫 始め	収穫 終わり	総収量 (g/株)	商品果 収量 (g/株)	対 北の輝 比(%)	商品果率 (果重) (%)	1果重 (g)
半促成栽培	豊雪姫	5/12	7/25	649.4	566.0	197	87.2	10.0
(低温カット)	北の輝	5/12	7/25	391.1	287.3		73.5	8.2
露地栽培	豊雪姫	6/12	7/13	358.4	347.8	160	97.0	13.1
	北の輝	6/12	7/9	236.6	217.8		92.1	13.5



図1 「豊雪姫」の果実



図2 「豊雪姫」の草姿

☆ 活用面での留意点

1. 種苗は平成26年から販売される予定です。
2. 詳しいことは、東北農業研究センター 畑作園芸研究領域 (TEL:019-641-9204) へお問い合わせください。 (日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 吉岡 宏)